

令和 8 年度（2026 年度）

社会福祉法人吹田市社会福祉協議会事業計画

近年、社会福祉法人吹田市社会福祉協議会（以下「吹社協」という。）では、くらしサポートセンターすいた、けんりサポートすいた、重層的支援体制整備事業など、地域福祉推進を担う重要な事業を吹田市から受託してきました。全国的に見ても、福祉ニーズの変化・多様化、地域課題の複雑化・複合化に応じて地域福祉の施策化が進んでおり、それを担う社会福祉協議会の活動や事業は広がりを見せています。今後も、吹田市から吹社協に寄せられる地域福祉推進への期待は大きいと思われます。

その期待に応える一方で、「住民のニーズを基本とした住民主体の地域づくり」、「個別支援と住民やさまざまな団体と連携した地域づくりの一体的な展開」、「住民やさまざまな団体が参画する協議体としての機能を活かした地域福祉の推進」など、社会福祉協議会が本来持つ機能や独自性を活かした事業展開にも、一層取り組んでいく必要があります。吹社協は、地域が必要とする事業を推進できる組織であるために、組織づくりや事業の実施体制、人材育成、財務等に関する

る具体的な取り組みについて中長期的な視点をもった中期経営計画を策定します。中期経営計画では、吹社協の使命や経営理念を明確にし、継続性・計画性をもった意思決定や事業の円滑な進行管理を行い、組織の内外に説明責任を果たすことで、吹社協の信頼をさらに高めて参ります。

昨年度より、第5次地域福祉活動計画に基づき、地区福祉委員会やボランティア、社会福祉施設、企業、学生、くらしに不安や生活課題を抱えた当事者など、住民やさまざまな団体が出会い、つながり、対話することで、地域住民が役割や活躍できる場を持ち、互いに支え合って暮らせる地域づくりを進めてきました。今年度におきましても、地区福祉委員会活動において、多世代の住民が集い、つながる居場所づくりなど、それぞれの地域特性に合わせた活動が広がるよう支援します。

また、地域貢献を目的に組織された吹社協施設連絡会との連携による地域福祉の推進や生活課題を抱える住民への支援、くらしに不安や生活課題を抱える当事者やその家族、支援団体との協働による居場所の運営や交流会、啓発活動など、吹社協のプラットフォーム機能を活かして、地域共生社会の実現を目指します。

住民の生活課題や地域課題を捉え、地域住民や専門機関と連携して地域支援を展開してきたコミュニティソーシャルワーカー（以下「CSW」という。）が配置されて今年度で20年を迎えます。昨年度より、吹田市から重層的支援体制整備事業を受託し、ますますCSWの果たす役割の重要性は高まっています。

また、地域住民や福祉事業者、企業等とともに吹田市高齢者生活支援体制整備協議会（すいたの年輪ネット）で協議しながら、高齢者の社会参加や互いに支え合う仕組みづくりを推進してきた生活支援コーディネーターが配置されて、昨年度で10年を迎えました。それぞれの事業の節目であるこの機会に、活動の成果を振り返り、これからの取り組みについて考える機会としてシンポジウムを開催します。

生活困窮者の支援においては、当事者やその家族が複雑・複合的な課題を抱えていることも少なからず見受けられます。そうした課題には、くらしサポートセンターすいたや生活福祉資金貸付事業、コロナ特例貸付債権管理事務事業が連携して相談支援を行います。

また、認知症高齢者や障がい者の権利擁護に関する課題には、けんりサポートすいたや日常生活自立支援事業が連携して支援を行います。生活困窮課題と権利擁護課題が複雑・複合的に合わさった世帯に

は、吹社協の専門性と各事業の連携力をもって、地域で本人が自分らしく安心して暮らせるよう取り組みます。

以上の方針に基づき、次の8点の事業に取り組んでまいります。

1. 中期経営計画の策定

地域課題が複雑化・複合化する中で、吹社協に寄せられる期待も大きくなっています。組織の使命や経営理念を明確にし、地域に求められ必要とされる存在であり続けるために、組織づくりや人材育成、資金調達、組織のガバナンス強化などを定めた中期経営計画を策定し、組織の基盤強化に取り組んでまいります。

2. 地域特性に合わせた地区福祉委員会活動の推進を支援

これまでも地区福祉委員会は、それぞれの地域の住民が必要とする福祉活動を積極的に推進し、地域のつながりづくりを進めてきました。時代の変化に伴い、地域課題も常に変化します。住民やさまざまな団体との出会いやつながりを大切にしながら、住民が相互に多様性を認め合い、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりがさらに推進されるよう、各地域の特性に合わせた交流の場づくりを支援します。また、そのつながりが災害時にも活かされ、災害に強いまちづくりが進むように支援します。

3. 吹社協の総合力を活かした個別支援と地域づくりの一体的展開

くらしサポートセンターすいた、けんりサポートすいた、重層的支援体制整備事業など、吹社協が担う事業の総合力を活かして、複雑・複合的な生活課題を抱える住民に寄り添い、支援します。また、個別支援を通じて捉えた地域課題に対しては、住民やさまざまな団体と連携して、住民が安心して暮らせる地域づくりを進め、個別支援と地域づくりを連動・循環させながら一体的に取り組みます。

4. くらしに不安や悩みを抱える当事者やその家族への支援

不登校や高次脳機能障がい、認知症など同じ悩みや不安を持つ当事者やその家族が出会い、安心や生きがいを持てるように、関係機関や支援団体と協働して、交流の場や孤立を防ぐ取り組みを進めます。また、住民への啓発活動を通して、当事者が安心して自分らしく暮らせるよう、互いに支え合う地域づくりを目指します。

5. 地域福祉活動やボランティア活動へのつながりづくり

地域福祉活動やボランティア活動への興味や関心を高め、高齢者や学生、企業などさまざまな世代や団体が気軽に活動につながるよう、情報収集や相談ができる場づくりを進めます。また、多くの方に興味や関心を持ってもらえるように、各種ボランティア講座やボラ

ンティアセンターまつりを開催します。

6. 受援力を高める福祉教育の実施

これまで吹社協は、地域住民やボランティア、当事者と協働して、他者を理解し、思いやりの気持ちを育む福祉教育を多くの小中学校等で実施してきました。これまで実施してきた福祉教育に加え、自分が困ったときに他者に頼ることができる「受援力」を高める福祉教育を学校や地域住民、関係団体、企業などと協働して進めます。

7. 災害時対応に向けた備え

いつ発生するかわからない大規模災害に備えて、吹社協の事業を継続して運営するために策定した吹社協 BCP（事業継続計画）の確認と更新を行います。また引き続き、災害支援に関する協定を締結した吹田市や団体、災害ボランティア事前登録者等との平時からの関係づくりに取り組み、災害ボランティアセンター設置・運営シミュレーション訓練や吹田災害支援ネットワーク、多世代を対象とした防災学習等を実施します。

8. 組織構成会員の連携と協働の推進

吹社協のプラットフォーム機能を活かして、組織構成会員が自らの活動を周知することで、会員相互の理解と共有を深め、地域福祉推進

のための協働につながるよう、組織構成会員同士の交流の機会を持ち、今後の協働について検討する機会をつくります。